

寺
ごよみ

四
月

一日 お講・下村

七日 うらやま日曜学校開校

心豊かな子供を育てるため、うらやま日曜学校では、今年から内容をさらに充実して、楽しみながら、豊かな情操を身につけられる催しを用意しました。塾もいけれど、寺子屋もすばらしいものです。あなたのお子さん、お孫さんどうぞ。

十五日 雪ん子劇団新学期 日曜学校とやらんで、いまや富山の雪ん子と呼ばれるほどに成長しました。新一年生の入団募集中です。

一六日 お講・栗虫

二九日 慶びの春・花の誕生会
十万のチューリップに囲まれて、おしゃかさま、しんらんさま、そして生きとし生けるものみなすべての誕生をお祝いする日です。
初参式（赤ちゃんがはじめてお寺に参る式）の申し込みを受けています。お電話下さい。

寺報 善巧

発行

☎ 938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
☎ 宇奈月 0765(65)0055

四月二十九日 午前十時より 慶びの春 花の誕生会

初参り、チューリップ、縁日
家族そろってお参り下さい。



チューリップに囲まれた善巧寺名物花の誕生会

京都の本願寺から末寺にポスト
ーが届けられ、善巧寺の廊下にも
掲示されております。

新装の阿弥陀堂の写真の上に、
空の青と、陽光の朱がデザインさ
れた清々しいポスターです。「本願
寺本堂昭和御修復完成慶讃法要、
期日 昭和六十年五月二十二日
一三十一日」と印刷されています。
悦びの法要に、門信徒の方々に、
本山参りをおすすめする
呼びかけの一つです。

「赤尾の道宗、まうさ
れ候。一日のたしなみに
は、朝のつとめにかさじ
とたしなむべし。一月の
たしなみには、ちかきと
ころ御開山様の御座候と
ころへ参べしとたしなめ。
一年のたしなみには、御
本寺へ参べしと嗜べしと
云々。これを円如様きこ
しめし及れ、能申たると
おほせられ候」

これは「蓮如上人御一
代記聞書」からの引用で
すが、赤尾は富山県五箇山の土地、
道宗は蓮如上人御門弟の一人です。
真宗門徒のたしなむべき勤めを、
簡単明瞭に述べており、今日の私
達も、守るべき金科玉条です。
毎朝、お仏壇に手を合わせるこ
と。毎月、善巧寺の本堂に御参り
すること。そして、一年に一度、
京都の御本山にお参りすること。
昔と異なり、最近では、旅行が楽

本 山 参 り

になり、レジャーとか何とか言っ
て、あちこちの名所見物に出掛け
る人が、増えております。日本内
地だけでは満足出来ず、海外に足
を伸ばす人々も珍しくない有様で
す。昔の人は、せめて一度は京さ
まへ行きたいと念じたもので、そ
の京さまとは、京都の御本山の、
ごしんねさまの前のことでした。
御本山の両堂に御参りし、西大谷
で納骨を済ませて、やっ
と、責任を全うした心持
ちになったものでした。

私も、善巧寺御門徒の
方々と御一緒に、何回も
本山参拝に参りました。
七百年大遠忌、御誕生八
百年法要にも出掛けまし
たし、念仏奉仕団での団
体参拝も致しました。

そしてそのたびに、御
本山の晨朝におまいりさ
せて頂いて悦びを共にさ
せて貰ったものです。

此の五月、阿弥陀堂の
大屋根修復完成の御法要
には、日本全国の真宗門徒が参集
する筈です。たまたま、善巧寺も、
大屋根修復完成法要を、今秋に控
えております。

春には、京都御本山の慶讃法要
に、そして秋には、善巧寺の法要
に、皆様方の御参りを御待ち申し
ます。

住職 雪山 俊之



明教院僧侶語録を味わう (二)

行信教校々長 利井興弘師

明教院僧侶のお祥月、空華忌でございまして、その僧侶のありがたい法語を味わってみるわけですが、「三業作罪の凡夫なれども」という言葉について「信をえたるしるしには、貧賤の下より仏恩を思いつかせたまう」とあります。今日はここをのころをいただいてみましょう。

で、浄土真宗におきましては、大事なことはまずこの「信」でございまして。ところがこの「信」というものがなかなかうけとりにくいようでありまして、これはどうしてかと申しますと、まず一つには、罪惡に目をつけて往生を疑うわけでありまして、つまり、こんなあさましい生活をしているのだから、助かることはないんじゃないか、とこう思うんですね。

この間違いはどこかと申しますと、私のあさましい生活の全体を知り抜いての上で救うのが仏のお慈悲でございまして、私がきれいな

を疑うようになるんです。一方、仏様とはいえば、その罪をこらんにあって、かわいそうだけれども、それはお前がいくらがんばつてもやめることも消すこともできないのだとおっしゃる。その消すこともやめることもできない私たちにむかって、おこされたのが仏様のお慈悲です。

この慈悲という言葉は、もとは「うめく」という意味だったようです。お慈悲といえは、やさしく、あたたかく、やわらかいものと思っておりますが、仏様は、うめいておられるのであります。こんな私だから、ではなくて、そんなお前だから助けずにはおかぬとうめいておられるのが、仏様のお慈悲なのでございまして。

信がうけとりにくいのはなぜか

さて、仏様の信—まことの心がなかなか、うけとりにくい原因の第二はと申しますと、仏祖に親しみやすい、というのであります。世の中の事なら、好きなものには何にでもひっかかる。恥しい話だが、私は、花や野菜をつくるのが好きなんです。かといって、一日中、それにかかわることはできませんで、本を読んだり、原稿を書いたりいたします。で、どちらが好きか、といわれたら、原稿より花なんです。

また、私たちはだれでも、好きなものほどひかれるわけですね。ですから、あなた方にしても、仏さまの前へ出るのが好きか、茶の間のテレビの前が好きか、茶の間のテレビの前が好きなかわかれれば、やっぱり茶の間のテレビということになる。

で、そこで、だんだん、好きな方が多くなって、仏さまの前へ出ることがだんだん少なくなる。それをフット思つと、こんな私では助からないのではなからうか、ということになるんです。

うちの寺には全国から若い学僧が集まってきておりまして、二百年前のこの善巧寺の空華廬のように、勉強しているのですが、その学僧たちが朝は必ず、七時におつとめをいたします。皆がきちんとまいるかといえは、なかなか出てこないやつもある。そんなとき、私の祖父の鮮妙がいったそうですが、「お前、朝の勤行に出るようになさいや」とすると、若いのが、「私は早起すると頭がボーッとして一日中すぐれませんが、ですから、ゆっくり寝て、日中勉強にはげんでいます。」

そこで鮮妙が、「お前は朝の勤行をどういうか知つとるか。おつとめというんじや。好きで仏さまの前にまいるのならおつとめとはいわん。つとめてまいるから、おつとめというんじや。だから、じゃまきさかうが、つらからうが、つとめてまいるようにせにやならん。仏さまにすれば、そのつらい中から、ようこそ参つてくれたかや、とよろこばれる。好きではなからうが、どうか、つとめて参るようになつてくれよ」といったそうであります。

仏祖に親しみやすい私—好きで好きでたまらん。後生の一大事を解決して下さる仏様よという気になれば往生も間違いないと思えるが、いまの私はなかなかそういう気持ちになれるものではございませぬ。だから、助からん、救われぬ、と遠ざかつてはいけません。やはり、つとめて参らせていただくように心掛けねばならぬわけでございます。

世間好きの仏法嫌いがわれわれの姿でございまして、そこを仏さまは、世間嫌いの仏法好きになつて参れよといわれるのではなくて、世間好きの気持ちの中から、お前が助かる道があるのだということに早く気がついて、よくよくつとめて聞いてくれよとおっしゃっているのではありません。

あくびまじりとなえたお念仏にも力はあるぞ。片言となえたお念仏にも力はあるぞ。南無阿弥陀仏はそんな私に働いて下さっているのだと、いただかなくてはなりません。

如来のメッセージをあなたに

会が三月二十日に開かれ、これからの寺の教化活動について話し合われました。はじめに、昨年一年間の事業報告が行われました。昨年は本堂の修復事業が進められていたため、六月一日の特別法座、夏の一泊開法が中止、落語会が公民館で祠堂会が一週間を二日に縮小、さらに日曜学校の休校など、多くの教化活動に影響が出たこともありましたが、新しくお盆の十六日に盆会が再開したことや、富山別院百周年法要に、善巧寺の教化団体が積極的に参加して、大いに評価を高めたことなどが、慶ばしい材料としてあげられました。つづいて今年度の事業計画について審議されましたが、今年は秋の落慶法要を中心に、積極的な教化活動を進めることで意見の一致をみました。



まず、法座に關しては、六月一日の特別法座

どめず、積極的に外へも働きかける事業もすすめます。具体的には誕生、入学、結婚、新築等の人生節目のお祝いに、寺から記念品やメッセージをお贈りします。これには門信徒の方々の協力が必要です。「孫が大学へ入った。」とか、「娘がヨメに行く。」とか「ひ孫が生まれた。」とか「隣りの家のおっさんが分家さっしやった。」とか、ホットな情報を是非寺へご連絡下さい。つぎにお寺に足を運



（白鶴会主催）と夏の一泊開法の再開。その他、日曜学校の活性化や、婦人会、夢を語る会の充実をはかり「お寺をハートのある公民館」として、幼少青壮老すべての門信徒が参加できる場づくりに力を入れることになりました。

また「如来のメッセージをあなたに」と、教化を寺の中だけにと

春の教化推進協議会開く

3月20日

お寺はハートのある公民館です

本山参拝団募集

私たちの開法の根本道場である

ご本山本願寺本堂（阿弥陀堂）の屋根瓦の全面葺き替えと、これに伴う修復工事の完成を記念して、五月二十二日より三十一日まで、のべ十日間にわたり、慶讃法要がご修行になります。

このご勝縁に一人でも多くの方々にお会いいただきたく参拝団を編成いたしますので、お誘い合わせお申し込み下さい。

富山教区事務所
黒西組組長事務所

団体名 富山教区 黒西組参拝団
期日 五月二十七日（月）出発。
五月二十九日（水）帰着。

参加費 三万九〇〇〇円

申込法 申込金一万円をそえて、四月十日までに寺へ。

× ×
帰敬式（おかみそり）納骨の希望者はいずれも冥加金五〇〇〇円をそえて、申し込みの際に。

× ×
詳細・お問合わせ 出発時刻、集合場所等につきましては追って連絡があります。締め切りがせまっておりますので、参加希望の方は電話でも一報下さい。

申し込み締め切りは4月10日

第1日	6:00~7:00 教区内各地	——〈北陸・名神高速道路〉——	ご本山（法要参拝）——	京都
第2日	市内旅館又はホテル（泊）	ご本山（晨朝参拝・おかみそり）——	大谷本廟（納骨）——	伏見桃山城（昼食）
第3日	——法隆寺——	唐招提寺——	奈良市内旅館又はホテル（泊）	伊賀上野忍者屋敷（昼食）——
	奈良市内見学（車中）——	女人高野室生寺——	伊賀上野忍者屋敷（昼食）——	——〈名神・北陸高速道路〉——
				21:00~22:00 教区内各地

落慶法要は10月20日に勤修

修復事業（排水・防水）に着手

春の総代会で決まる

3 月 20 日

春の総代会が三月二十日、教化推進協議会に引き続き開かれ、昨年来進められてきた本堂修復事業の付帯事業として、境内の排水工事、庫裡の雨もり防水工事を進めるとともに、同事業の完成にともなう落慶法要を、十月二十日（日）報恩講のお満座後に勤修することを決めました。

まず会計の中山慶太郎さんから三月二十日現在の募財状況の報告があり、

志納件数五六五件、昨年の瓦本工事等の支出差引残高がおよそ一〇〇万円であることが確認され、今年度の特別会計関係事業について話し合われました。

はじめに、同事業の専門委員の鬼原勝治さんから付帯工事についての説明があり、現在の善巧寺で考えるべき問題は①本堂の基礎固めと境内の排水②庫裡の雨もりの防止③消火栓等防災および消雪に関するポンプの設置——の三点であるとの指摘がありました。



①の排水については、大屋根と境内の水がたれ流し状態で、法輪寺、照行寺に多大の迷惑をかけている点。②の雨もりについては、庫裡のコンクリートの老朽（二十二年経過）等により、帳場、座敷押し入れ、空華殿との接点、住職居室が現在雨もり状態にあることや、ひさし、屋上のモルタルの破損、鉄製サッシのサビ等、いま手をつけておかないと被害をさらに大きくする——との見解で、雪どけを待って着手することが

全員一致で決まりました。

寺の全会計初公開 寺費 平均八、〇〇〇円に

この日の総代会で、お寺の一般会計の五十九年度決算と、六十年

度予算案が左の頁の表のごとく報告され、審議の結果、原案通り承認されました。

におさめ、華美に走らず粗末にならず、報恩講のお満座にあたる十月二十日につとめることとし、教化推進協議会を中心にして事業内容を固めてゆくことになりました。

なお、募財に関しては、件数は五六五件と、ほぼ目標件数に達してはいるものの、未志納の方もおられるため、祠堂会、盆会あたりをメドに、なんらかの協力願いの働きかけをすすめることになりました。

つぎに六十年度の予算をみますと、支出面では寺族の人情費が月額四十八万から、それぞれ一万アップの五十二万とさせていただいて年間六二四万、運営費は法要費の内

の営繕関係費を抜いて前年度よりわずかに下げ、一方維持費の方で約八十萬の増、それに予備費を六十五萬とって、合計一、二五三萬の予算となりました。これは諸物価の値上がりからみてもぎりぎりの線です。そこで収入の問題ですが、布施収入は寺から決められるものではないので昨年とほぼ同

寺
ごよみ
五月

一日 お講・音沢
一六日 お講・音沢
二七日 本山参拝 昭和の大修復
二九日 山阿弥陀堂の大屋根修復も完成し
落慶法要が営まれます。善巧寺では自坊の大屋根修復の完成と合わせて二重の慶びの心をこめて、門信徒の方々と本山参りに出かけます。くわしくは前のページを。お申し込みはお早めに。

額を見込み、会費（寺費）については、三年すえ置き平均七、〇〇〇円を、今年度は八、〇〇〇円に上げさせていただいて、寺の運営の充実を計る方針を明らかにさせていただきます。

これに対して、まず、寺のガラス張り会計を評価するとの声があり、つづいて寺費の値上げに関しては、一律というだけでなく、各門徒の事情を深く考慮して、戸別に相談して予算額達成に近づくよう努力すべきであるとの意見が出ました。今回の会計報告はとにかくはじめてのことでありまして、不備な点も多いとは思いますが、これが現在の善巧寺の現状であるということをご理解いただいて、今後とも積極的なご協力をお願い申し上げます。

59年度善巧寺一般会計報告

(収 入)		
1.	布施収入	7,914,159
	門徒法要	6,295,700
	年中行事	818,420
	さい銭	350,460
	雑収(内陣法名等)	449,579
2.	会費	3,363,500
3.	雑収入	433,215
	合 計	11,710,874

(支 出)		
1.	人件費	5,760,000
2.	運営費	4,180,414
	法要	1,611,430
	化務	701,368
	費	767,629
	議	273,669
	待	235,556
	費	54,015
	雑	536,747
3.	維持費	1,403,689
	費	527,500
	繕	796,189
	除	80,000
	合 計	11,344,103
	差 引	+ 366,771

60年度善巧寺一般会計予算

(収 入)		
1.	布施収入	8,100,000
	門徒法要	6,500,000
	年中行事	800,000
	さい銭	350,000
	雑収(内陣法名等)	450,000
2.	会費	4,400,000
3.	雑収入	430,000
	合 計	12,930,000

(支 出)		
1.	人件費	6,240,000
2.	運営費	3,825,000
	法要	1,200,000
	化務	800,000
	費	850,000
	議	570,000
	待	200,000
	費	55,000
	雑	150,000
3.	維持費	2,215,000
	費	550,000
	繕	1,500,000
	除	165,000
4.	予備費	650,000
	合 計	12,930,000

三月十日 日曜日

近頃は、法要が日曜日に集中する傾向で、今日も三つ。下村・柄沢・下立の三カ所に出掛けることになっている。サラリーマン家庭が増えて、日曜以外は家を留守にする人種が多くなった為だろう。寒い筈で、戸外は雪。下村の寺詣りが八時半、十五名の約束で、書齋にストーブをつけ、何ということなく、硝子越しに雪を見ている。

八時近くから本格的な降り方に変わり、残雪が漸く消え去っていた離れ座敷の屋根が、見ている内に白くなって行く。羅漢樹が雪化粧をして行くその過程が面白い。庭一帯が静まり返っている。



住職日記

九時半迄に、寺詣りの勤行。三。総代の方々、三々五々、既に集まっている。今日は太子会。門徒の中の、職人さんをも集めて、聖徳太子奉讃会を初めてから、今年は七回目になる。

本堂余間に、太子七高僧像をかがけ、法要を行う。集会所に席を移して、十七条憲法の法話をする。終わって直ちに下村へ向う。当主は、教育委員会に勤務。先代の法要であり、兄弟九人、一人も欠けずに、亡父の回忌に各地より参集。戦後に建てた大邸宅であり、新しく、おられる。先代の法要で、参会者三十名。血縁地縁、そして法縁のつながりで集まる人々の中で、色々な御縁を感じる。此の家には、

浦山で寺に何時も来る八十八才のお婆さんの娘が来ている。最後は下立。太子さまの法要である。集まる人六十人。先代・先々代と五人の仏の名が表白文に掲げられている。先代は土建業で、当主も永年の関電勤務を退いて、先代の業をついで今日に至っている。

寺
ごよみ六
月

一日 お講・音沢 白鶴会特別法座 中央のご講師をお招きしてありがたいご法話を聴聞させていただきますので、おさそい合わせお参り下さい。

二日 浦山野休み落語会 ご存知ですよね、もう。今年で八回目です。永六輔さんのご厚意で、江戸の超一流の落語家が本家帰り。寺の御堂の高座でたっぷり古典落語を聞かせて下さる。今年はそれに、芸術祭優秀賞をうけたマジックの花鳥世津子さんも加わってまあとにかく最高の雰囲気。あなた来ないと始まりませんよ。

一六日 お講・音沢

フォークソングコンサート

3/12



お寺の本堂で三月十二日、フォークソングのコンサートが開かれました。雪ん子劇団の親の会の宇奈月夢を育てる会の主催で、出演は、フォーク界のリーダー、笠木透さんとその仲間、ナターシャセブンの板庭賢享さんに、進藤了彦さん。

このコンサートは、カラオケや歌謡番組に毒されている人たちに本来の素朴な歌ごろをとりのもってもらおうと、富山のお寺の若い衆が集まって企画された「寺コンツァー」の一環として催されたもので、寒い本堂には雪ん子の子供達やお父さんお母さん。黒部市や魚津市、朝日町などからかけつけたファン

正忌勤まる

親鸞聖人のお祥月法要「御正忌」が、今年も厳寒の一月十三日から四日間つとまりました。

住職の導師、法輪寺、照行寺のご伝鈔の拝読、と例年通りの法要でしたが、今年には特に、若院から「浄土真宗の門徒たるもの深く因果の道理をわきまえて、何ものにもだまされない生活を送るよう心を改めよう」との訴えがあり、参拝者一同心を引きしめたことでした。

太子会

寺の太子会は三月十日に勤修され、門信徒の建設関係者や総代の方々が参集されました。

勤行のあと、会合が聞かれ、寺の修復事業について、専門家の立場から有意義な助言をいただきました。この時に出された意見は二十日の総代会で大いに参考にさせていただきました。お参りになれなかった四十人を越える建設関係の皆さん、来年は寺のためを思っ

六輔七転八倒

第八回浦山野休み落語会

今年も恒例の「浦山野休み落語会」が六月二日(日)の夜、善巧寺の本堂で開かれます。

出演はおなじみの永六輔さん、柳家小三治、入船亭扇橋の両師匠それに入船亭扇好さん、柳家大治さん。さらにマジックの花島世津子さんというメンメン。

六月二日(日)夕、善巧寺

本堂で開催

こんなすばらしい出し物は日本中どこへいっても、めったにお目にかかれるものではありません。善巧寺ならではの、宇奈月夢を語る会ならではの催しであります。今年で八回目を迎える落語会、門信徒の方々も、ぜひのお越しを。

のみなさんが二百人と、ほどよいお集まり。

笠木さんのおしゃべりと、ギターとベースの伴奏でうたわれる歌はほのほのと心あたたまる歌、ほんとにそうだとかなずける歌、腹をかかえて笑える歌、おもしろくてやがて悲しくなる歌などじつにさまざま。集まった人たちは、一

曲ごとに聞き入り、手をたたき、そして声を合わせて一緒にたのしくうたったことでした。

なお、この時の実録テープは寺に用意してあります。もう一度、あの歌を聞きたい。覚えたいという方、来られなかった人たちに聞かせたいという方、どうぞご連絡下さい。実費でおわけいたします。

スノーローダーが活躍



この冬、寺の除雪作業に小型スノーローダーが登場、境内をくまなく走り回り、大活躍しました。これまで雪が積ると本堂までの参道が通れなくなったり、境内の道がゴボツたりと、困ることが多かったのですが、本堂前の合掌囲いととともに、十二分に威力を発揮してくれまして、おかげで門徒さんにも大いによこばれました。

合掌

お寺でフォークソング!? なんじゃそれは、と意外に思われる方も多いでしょう。

御堂で落語会? 変わったことをする寺じゃわねー、と思っておられる方も少なくありません。

寺はおごそかに、ご法事をつとめ、お説教を聞くところ――もちろんその通りかもしれません。

でも、そのご法事に読まれるお経はどうでしょう。二千年来、あるいは七百年来、うたいつがれた信心のうたであります。お寺は私の生き方をうたで聞く場でもあるのです。

そして、落語も、じつはお寺の説教からはじまったすばらしい文化です。それが本家帰りをし、年に一度、みなさんの心をなごませる。うれしいことではありませんか。

六十年度の教化推進協議会で確認されたのも、新鮮で、積極的な教化活動の模索です。

お寺をハートのある公民館に、これが私達の合言葉です。

